



むかい

学校教育目標

- ・かしこく ・やさしく
- ・たくましく ・なかよく

続 後押しの姿勢

校長 川添 倫義

先月号で「子どもと向き合い、子どもに意欲的な活動をさせるためには、まさに子どもを尊重することから始まると思います。子どもが自分と異なる考え方を示しても、「そんな考え方もあるのか」「ユニークな視点だな」という捉えからその後の自分のアプローチの仕方を考えていきたいものです。」とお伝えしましたが、子どもを尊重するアプローチについてもう少し深掘してみます。

「何で〇〇なの?」、「だからだめなんだ」という声かけは、尊敬した言葉かけではないので、その言葉をかけられた相手がやる気を出せるわけがありません。「鞭を打って走らせる」、「飴を渡して喜ばせる」ことも損得勘定を生み、好ましくありません。ではどうすればいいか? やり遂げたら良い思いや良いことがあるかもしれないということを言葉や態度で表現することです。

アドラー心理学にも、「すべて行動には目的がある」という目的論、「罰され（叱られ）なければ悪いことをやる・褒められるから適切な言動をする」という承認欲求、「他者の課題には踏み込まない・これは自分の課題である」という課題の分離（責任感）という考え方があります。

また、「よく気が付いたね」「早くできたね」「いつまでやっているの」など、状態を伝えることで褒めたり叱ったりすることがあります。しかしながら、うれしさや悲しさの感情は生まれるものの、自ら学び育つため声かけとしては物足りません。

- ・能力や人となりを決めつけない。
- ・他人と比較したり利用したりしない。
- ・プライドや自尊心を傷つけない。
- ・言い訳を聞き、行動の仕方を示す。
- ・決めつけではなく、「私は・・・と思う」というアサーティブな伝え方をする。
- ・「頑張れ」より「頑張ったね」
- ・望ましくない行動には「めずらしく」「たまたま」、褒めるときは「いつも」「ぜったい」
- ・「いい子だね」より「うれしい」「助かった」
- ・誠実であることは子どもとの信頼関係を築く。
- ・大きな目標への順を追った小さな目標を掲げる。

これらは、心理学の書籍等から学んだことで、教師として心がけてきたことです。保護者や教師は、子どもを育てるという課題に挑戦し続けるチャレンジャーです。子どもの思いや考えを尊重した声かけで、子どもをやる気にさせ、自らを育てる力を伸ばしたいものです。